

100歳社会総合研究所 創立記念シンポジウム

DF代表理事 真瀬 宏司

DFRI 100歳社会総合研究所の設立の背景

100歳社会が間近にある中で総研の活動は、DF活動そのものであり、100歳社会を自覚しながら会員の活動範囲を広げることであります。総研とはDFがロールモデルを具体的にやっていく団体としたい。そして2年後20周年、そしてDF創立30周年の2032年に日本、世界に寄与できるものを残すことを目標にして広く挑戦していきたい。



100歳社会DFRIの設立の目的

- (1) 健康、長生き、意義ある生活をしていくことに対する恩恵、自ら挑戦し外部に発信すること。
- (2) DF入会の案内には社会貢献を通じ価値ある生き方を求める、自己研鑽に励み充実した生活を求める、交友の輪を広げ人生を楽しみたいという設立目的があるが、100歳時代にあっても変わりはない。健康 長生きへの挑戦 100歳時代を意識して社会貢献する。
- (3) キーワードとして・健康・生き甲斐・経済的基盤と言われている100歳社会に対する活動、10年後、20年後DFに聞けばいいのではというくらい この活動を提示し、提言できるようにする。100歳社会をターゲットに健康医療その他外部の人とも一緒に勉強続ける。

日本の現在の寿命は男性81歳、女性87歳で世界で冠たる長寿国である。

2003年英国の学者が2007年生まれの人々の寿命を推定した所、日本の場合には107歳、また他の先進国でも100歳以上の寿命であることが推測された。100歳という年齢が身近なものになっている。

日本の高齢者の人口割合は2065年38.4%になると推定されている。これは出生率が下がり90万人以下となってきたこと、逆に第一次ベビーブームの71歳から73歳の人たちは年間270万人の出生であったそのギャップが原因で、しかも生産年齢者の割合が減ってきている。DFでの活動も 経済的基盤の確立という意味で ベンチャー企業支援などでしっかり稼ぐ力をつけていく必要があります。

DFRIの目標は

100歳社会総合研究所については 昨年4月以降 10回の勉強会を開催してきた。この総研の目標は当面前倒しの面があるが、

2020年 DFRIを創立 DFは100歳社会に向かったの挑戦を始める。

2023年 団体としてやるべき事の100歳社会のロールモデルを提示できるようにする。

2032年（DF創立30年）外国例えば中国などに長寿モデルノウハウを提供できるようにする。

新しい課題への取り組み DF活動と如何にリンクさせるか

理科実験の活動で従来小学生対象であったものを大学生に適応して一定の評価を得るつまり、DFの活動の従来の活動の枠を超えて活動する。

環境部会、技術部会が別々にプラスチックリサイクルと環境問題を学んでいるが 部会都度の活動をミックスしてもっとやっていければ 更に力が発揮できるのではないかな。さらにはSDG'sに繋げていけるのではないかな。

また、観光立国研究会では DFで初めて本を出版した。これも従来の枠を超えた活動と捉えられる。

そして、この延長線上に枠を広げて100歳社会のDFの活動に近づけていく。

更なる飛躍へ

100歳社会の視点でDF基本活動をさらにアップグレードできるのではないかな。DFの活動の量と質をさらに拡大していく。また会員の皆が100歳時代への挑戦を続け、2年後、3年後に発表会を開く。勉強会から研究会へと発展させていく。それに加えて新規テーマとして、例えば女性会員による活動の場という新規テーマで研究していてもよいのではないかな。

DF会員仲間と新しい100歳社会総合研究所という事について挑戦していきたい。

（記 事務局 矢島健児）